

Ⅱ 実践編

2 事例集一覧※適宜、更新していく予定です。 消防署が取り組んだ事例をまとめています。参考にしてください。

	内容
鶴見消防署①	鶴見区自治連合会主催による「集まれ！防災e-パーク」
鶴見消防署②	地域及び他機関と合同で行う火災予防啓発
神奈川消防署	区民まつりでの広報(防災e-パーク・ポケモン)
西消防署	「みなとみらいParkDay」イベントにおける「よこはま防災eパーク」の広報
中消防署	ハローよこはま 2023(区民まつり)における防火・防災啓発
南消防署①	地域防災訓練における「防災クイズ」実施による防災意識の啓発
南消防署②	防災てらこや
港南消防署	港南区防災講演会
保土ヶ谷消防署①	自治会の災害時要援護者見守り訪問と連携した防災訪問
保土ヶ谷消防署②	回覧板を使用した住宅用火災警報器の点検
保土ヶ谷消防署③	火災予防協会から寄贈された住宅用火災警報器の高齢者世帯への無償配布
旭消防署	「おうちぼうさいてんけんシート」を活用した防災意識の普及啓発

Ⅱ 実践編

	内容
磯子消防署	防災フェスにおける「よこはま防災e-パーク」の広報
金沢消防署	ぬりえを用いた住宅用火災警報器の設置、点検及び交換等の広報
港北消防署①	トレッサ横浜防災フェア「はたらく車」における「よこはま防災e-パーク」の広報
港北消防署②	わくわく消防フェスタにおける区役所と連携した啓発
港北消防署③	初期消火器具取り扱い訓練会における自治会と連携した啓発
緑消防署	QRコードを利用した広報
青葉消防署	青葉区役所と連携したポケモンぼうさいきょうしつクイズ
都筑消防署	都筑区消防出初式において「よこはま防災e-パーク」の広報
戸塚消防署	保育園の消防署訪問
栄消防署	事業所等と連携した防火・防災啓発
泉消防署	防火ポスターコンクール(泉区の小学校児童を対象)
瀬谷消防署	町の防災組織初期消火合同訓練会

Ⅱ 実践編

(1) 鶴見消防署 取り組み事例 1

ア タイトル

鶴見区自治連合会主催による「集まれ！防災e-パーク」

イ 概要

鶴見区自治連合会主催の下、鶴見区役所、鶴見消防署及び鶴見消防団、鶴見警察棟の協力により、幅広い世代が楽しみながら防災を学ぶ防災イベントを開催

ウ 取組内容

(ア) 実施事項

初期消火訓練（水消火器）、心肺蘇生法及びAED取扱い、煙体験、ミニ消防車（バッテリーカー）展示、子ども防火衣、消防音楽隊演奏、予防担当6名、消防団係4名、消防団40名

(イ) 必要な資機材

ミニ消防車（バッテリーカー）2台、煙体験ハウス及びスモークマシン、水消火器、レサシ案、訓練用AED、子ども防火衣など、テント、長机、椅子※テント、長机、椅子は主催者用意

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整など

鶴見区自治連合会、鶴見区役所及び鶴見消防署との調整

オ スケジュール

7月：防災訓練第一回プロジェクト会議

8月：防災訓練第二回プロジェクト会議

9月：防災訓練第三、四回プロジェクト会議

10月：防災訓練第五回プロジェクト会議

11月：防災訓練第六回プロジェクト会議

11月19日：「集まれ！防災e-パーク」参加

カ 予算など

特になし

キ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年11月19日（日）9時00分から11時45分

参加者：約3,000名

場所：鶴見花月園公園大原っぱ（鶴見区鶴見1丁目1-1）
（各ブースをスタンプラリー形式で体験）

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(1) 鶴見消防署 取り組み事例2

ア タイトル

地域及び他機関と合同で行う火災予防啓発

イ 取組内容

地域、鶴見区地域振興課、鶴見警察、鶴見交通安全協会と合同で、交通安全、詐欺犯罪等による被害防止及び火災予防、住宅防火診断の啓発広報を実施

ウ 関係先との調整

地域振興課を塾に地域及び各機関と調整

エ スケジュール

- ・ 春の火災予防運動 交通安全・振り込み詐欺啓発・・・3月上旬
- ・ 新入小学校生交通安全教室、火災予防啓発広報・・・4月初旬
- ・ 高齢者宅への交通安全、防災訪問・・・年度内2回程度
- ・ 飲酒運転撲滅イベント、火災予防啓発広報・・・12月初旬

オ 予算など

なし

カ 備考（実施状況効果等）

地域、区役所、警察、消防が一体となり実施するため、区民等にオール鶴見の安全・安心感を与えている。



明日をひらく都市

鶴見の安全
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(2) 神奈川消防署 取り組み事例

ア タイトル

区民まつりでの広報（防災e-パーク・ポケモンぼうさいきょうしつクイズ）

イ 取組内容

多くの集客、特に親子での参加が見込まれる区民まつりにて子どもの目を引くポケモン防災クイズを実施し、体験後には親に対してチラシ（防災e-パーク・住宅用火災警報器）等を活用した広報を併せて実施

(ア) 実施事項

子どもを対象（大人も参加可）に「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズを体験を実施した。体験後に、お父さん、お母さんにチラシ等を活用した「よこはま防災e-パーク」「住宅用火災警報器」等の案内を実施し、さらに粗品をプレゼントした。

(イ) 人員

3～4名（職員）

(ウ) 必要な資機材

長机、テント、椅子（主催者側で用意）
タブレット、チラシ、粗品（所属で用意）

Ⅱ 実践編

- ウ 関係先との調整等
主催者である実行委員会（地域振興課）との調整
- エ スケジュール
出店募集に応募（7月）
出店者説明会（8月）
- オ 備考（実施状況効果等）
【実施状況】
日時：令和5年10月8日（日）10時00分から15時00分まで
体験者数：約1,000名（延べ人数）
場所：反町公園（神奈川区反町1）（区民まつり来場者数 約75,000人）

Ⅱ 実践編

(3) 西消防署 取り組み事例

ア タイトル

「みなとみらいParkDay」イベントにおける「よこはま防災eパーク」の広報

イ 概要

高島中央公園で開催されたイベント「みなとみらいParkDay」において、「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズの体験や「よこはま防災e-パーク」の広報を実施し、子どもや子育て世代への防災意識の醸成を図った。

ウ 取組内容

「みなとみらいParkDay」にブースを出展し、バッテリーカーの乗車体験を実施した親子等に「よこはま防災e-パーク」の動画を見てもらい、動画を見た方にガチャガチャを回してもらって、西消防署オリジナル缶バッジをプレゼントした。別のブースでは、モニターによって子どもを対象に「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズを実施した。

【人員】予防担当3名

【必要な資器材】

長机、テント、椅子、モニター、ipad等（主催者側等で用意）、iPad、バッテリーカー等⇒予防課で用意



Ⅱ 実践編

- エ 関係先との調整等
高島中央公園愛護会からの依頼を受けて参加、消防団に支援依頼
- オ スケジュール
7月：高島中央公園愛護会から依頼
10月：消防団係を通じて消防団に支援を依頼
11月12日：「みなとみらいParkDay」参加
- カ 予算など
特になし
- キ 備考（実施状況効果等）
【実施状況】
日時：令和5年11月12日（日）10時00分から15時00分まで
来場者数：約500名
場所：高島中央公園（西区みなとみらい5-2）

Ⅱ 実践編



(4) 中消防署 取り組み事例

ア タイトル

ハローよこはま 2023（区民まつり）における防火・防災啓発

イ 概要

「ハローよこはま 2023」において、「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズの体験、心肺蘇生法体験、デジタルサイネージによる広報を実施することで、子どもや子育て世代への防火・防災意識の醸成を図った。

ウ 取組内容

- ・「ハローよこはま 2023」にブースを出展、タブレットを使用し、親子を対象に「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズを体験していただいた方にガチャガチャ1回プレゼント
- ・デジタルサイネージによる防火・防災啓発を実施
- ・心肺蘇生法体験など

人員：予防担当3名

必要な資機材：長机、テント、椅子（主催者側で用意）、iPad、デジタルサイネージ、チラシ、レサシ等（予防担当）

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整など

ハローよこはま実行委員会との調整

オ スケジュール

7月～8月：「ハローよこはま 2023」参加調整

9月：「ハローよこはま」実行委員会との必要資機材等の調整（長机、テント、椅子等）

11月12日：「ハローよこはま 2023」参加

カ 予算など

1ブース10,000円

キ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年11月12日（日）10時30分から16時00分まで

場所：象の鼻パーク（中区海岸通1丁目）

「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズ体験者数：約300人



明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(5) 南消防署 取り組み事例 1

ア タイトル

地域防災訓練における「防災クイズ」実施による防災意識の啓発

イ 概要

大規模（200名）な地域防災訓練において、「よこはま防災e-パーク」に掲載の「防災クイズ」を活用し、住民参加型のゲーム形式でクイズを行い、市民への正しい防災知識の普及を図った。

ウ 取組内容

(ア) 実施事項

- ・訓練全体では「煙体験」「水消火器」「防災クイズ」の3ブースを設置、参加者を3班に分けて、各班で順に各ブースの内容を実施
- ・「防災クイズ」ブースにおいて、デジタルサイネージを使用したパネルクイズを実施

(イ) 防災クイズ詳細

- ・20問程度を準備し、各設問に、「問題画面」、「回答画面」、「解説画面」を作成
- ・進行役は消防団員数名に依頼し、問題読み上げ、考え中、回答画面では、それぞれ盛り上げるようなしゃべりを実施、解説画面では、出張所長によるさらに踏み込んだ解説を行い正しい知識を伝達

Ⅱ 実践編

(ウ) 人員

準備：出張所長1名・予防担当2名

実施：出張所長1名・消防団員3名

(I) 必要資機材

デジタルサイネージ・素材データと操作用端末（今回はパワーポイントによるデータを作成し、操作端末は予防担当保有のiPadを利用）

エ 関係先との調整等

署予防担当と管轄出張所長による実施方法の調整、地域担当者との実施方法及び内容の調整、消防団員への協力依頼

Ⅱ 実践編

オ スケジュール

5月：地域の防災担当者から訓練実施の依頼

6月：管轄出張所長と担当者による訓練実施内容の調整

※担当者からの依頼は、例年通りの内容（水消火器・煙体験・起震車）であったが、起震車が借用できなかったため、代替案として新たな取組「防災クイズ」を提案

8月：署予防担当と管轄出張所長による実施方法の確認

※デジタルサイネージへの表示方法・操作方法等の確認

9月10日：訓練実施（訓練実施前に消防団員と簡易的なハールサル）

オ 予算など

特になし

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年9月10日（日）9時00分から11時00分まで

場所：横浜市立大岡小学校校庭（南区大橋町3-49）

体験者数：約200名

【効果・感想】

- ・ 参加住民が楽しみながら学んでいる様子が伺えた。
- ・ 携わった消防団員からも好評で、実施方法にゲーム性（勝ち残り等）を取り入れることで、さらに盛り上がりを期待できると感じていた。
- ・ 参加者にも考えさせることができ一方的な講話より理解度も高いと感じる。

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(5) 南消防署 取り組み事例2

ア タイトル
防災てらこや

イ 概要

南消防署では子どもたちが楽しく防災について学べるコミュニティの形成に向けて、横浜橋通商店街と野毛印刷社との共創事業「防災てらこや」に取り組んでいる。

ウ 取組内容

(ア) 実施事項

絵本の読み聞かせ（10分）、クイズパネル（10分）、風水害AR体験：防災アプリ「横浜市避難ナビ」（10分）、子ども防火衣体験（10分）

(イ) 人員

南消防署予防担当4名、野毛印刷社1名

(ウ) 必要な資機材

プロジェクター、iPad、絵本、クイズパネル、子ども防火衣、デジタルサイネージ→消防署で用意、パソコン、ポスター、てらちゃんシール（園児へのお土産）→野毛印刷社で用意



明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整等

野毛印刷社と人員、資機材、実施事項の調整、横浜橋通商店街空き店舗の日程調整、保育園への案内、日程調整

オ スケジュール

5月：保育園への案内、横浜橋通商店街空き店舗の調整、実施計画の作成

6月：野毛印刷社との打ち合わせ、

6月20日： 防災てらこや実施

カ 予算など

特になし

キ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年6月20日（火）10時45分から11時30分（同規模のものを毎月開催）

場所：横浜橋通商店街 空き店舗（南区高根町1丁目）

体験者数：15名（園児：12名、先生：3名）

【実施効果】

- ・ 絵本を通じて、防災を学ぶのは園児たちが理解しやすく学習効果が高いと感じた。
- ・ クイズパネルは園児が楽しんでいる様子が伺えた。
- ・ 風水害ARは準備にかかる時間も少なく、園児たちの反応が良いので取り入れやすいと感じた。

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(5) 港南消防署 取り組み事例

ア タイトル

港南区防災講演会

イ 取組内容

関東大震災から100年を迎えた節目に、災害に備える機会として、防災関係者を一堂に会して特別講演会を開催し、「自助」、「共助」の取組みである地域防災活動の強化を図ることを目的に実施

Ⅱ 実践編

ウ 関係先との調整など

(ア) 調整先

港南区役所、港南火災予防協会、横浜市民共済港南区長、総務課長、庶務係長、地域防災担当係長、地域防災担当港南公会堂 神奈川県立歴史博物館、横浜開港資料館、横浜市史資料室、無印良品手話通訳事業者、映像編集事業者

(イ) 内容（消防で調整）

- ・ 一部 講演は関東大震災から100年をむかえることをテーマに講演を検討
- ・ 横浜を熟知し、家庭防災員や地域の取組に精通した講師を調整
- ・ 二部 横浜市消防音楽隊による演奏及びドリル演技を検討
- ・ このほか防災パネル展、防災グッズ展示を会場内で同時開催することで検討

(ウ) 募集

防災関係者（消防で対応）、家庭防災員、港南消防団員、港南火災予防協会員、シニアクラブ等一般区民（区役所で対応）自治会・町内会関係者を含む

Ⅱ 実践編

エ スケジュール

- 6月中旬：講師調整
- 7月上旬：区役所各課調整
- 7月中旬：区長説明
- 7月下旬：チラシ・ポスター等作成
- 8月上旬：広報よこはま調整
- 8月中旬：防災パネル展関係調整開始
- 8月下旬：チラシ等確定
- 9月上旬：防災関係者募集調整
- 9月下旬：防災関係者へ開催案内
- 10月上旬：チラシ等配布
- 10月中旬：港南区区連会で情報提供
- 10月下旬：防災関係者参加取りまとめ
- 10月下旬：一般参加者募集
- 11月中旬：一般募集終了
- 12月8日：開催

Ⅱ 実践編

オ 予算など

地域防災活動支援事業費を活用

- ・ 資料等印刷費 ¥57,200- プログラム作成
- ・ 講師謝金 ¥30,000- 講師謝金
- ・ 消耗品費 ¥16,500- 講演会用生花 合計 ¥103,700-

カ 備考（実施状況効果等）

広報用チラシ及びプログラム（下図のとおり）



チラシ



プログラム

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(7) 保土ヶ谷消防署 取り組み事例 1

ア タイトル

自治会の災害時要援護者見守り訪問と連携した防災訪問

イ 取組内容

【実施事項】

自治会の災害時要援護者を対象にした見守り訪問と連携して防災訪問を実施
(コロナ渦はポスティングのみ)

【参加者】

自治会会員（会長、防災担当、民生委員、家庭防災員等）
消防署（予防係長、予防係員、出張所長、救急担当係長等）

【必要な資機材等】

各種火災予防チラシ、パンフレット、非常食(自治会で準備)

ウ 関係先との調整等

日程や当日の流れなどを自治会担当者と調整



Ⅱ 実践編

エ スケジュール

11月初旬：自治会担当者と日程や内容について調整

11月中旬：日程や内容を踏まえ、実施計画、人員、準備資機材等の署内調整

12月初旬：自治会担当者と最終調整

12月中旬：防災訪問実施

オ 予算など

特になし

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

60世帯の災害時要援護者のご自宅を訪問

【効果等】

- ・自ら防災情報を取得することが難しい災害時要援護者に対し、直接各種防災情報を届け、状況に応じた啓発ができる点において効果的である。

- ・土地勘や日頃から地域で活動している顔馴染みのある地元の方々と訪問することから、効率的かつ安全に訪問することができる。

【その他】

- ・この防災訪問の取組は、元々、自治会で行われていた災害時要援護者見回り訪問を知った消防署が、地元の家庭防災員に相談したことをきっかけに実現した。

明日をひらく都市

YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

60世帯の災害時要援護者のご自宅を訪問

【効果等】

- ・自ら防災情報を取得することが難しい災害時要援護者に対し、直接各種防災情報を届け、状況に応じた啓発ができる点において効果的である。
- ・土地勘や日頃から地域で活動している顔馴染みのある地元の方々と訪問することから、効率的かつ安全に訪問することができる。

【その他】

この防災訪問の取組は、元々、自治会で行われていた災害時要援護者見回り訪問を知った消防署が、地元の家庭防災員に相談したことをきっかけに実現した。

Ⅱ 実践編

ウ 関係先との調整等

- ・ 家庭防災員（自治会の役員（防災担当））に対し、事業の説明と調整
- ・ 自治会役員へ事業の説明（プレゼン）をし、実施の意思決定を得た。

エ スケジュール

- ・ 家庭防災員に住宅用火災警報器の一斉点検に実施についての相談（8月初旬）
⇒ 回覧板による点検についての提案を受ける。
- ・ 回覧するリーフレット（案）を作成し、家庭防災員と内容についての確認・協議（8月中旬）
- ・ 自治会役員に企画の内容を説明し、実施の意思決定（9月初旬）
- ・ 回覧するリーフレットを自治会へ提出（10月初旬）
- ・ 自治会にてリーフレットを配布、回覧板による点検票の回収（10月初旬）
- ・ 自治会より回収した点検票を受領（11月初旬）
- ・ 点検結果を集計し、実施結果を取りまとめ自治会へ提出（11月下旬）
- ・ 自治会にて実施結果を回覧（12月初旬）

Ⅱ 実践編

- オ 予算など
 - カ リーフレットの印刷代
 - 備考（実施状況効果等）
- 【実施結果】

161世帯の点検票を回収した。台所の設置率は84.8%であったが、寝室の設置率61.4%、階段の設置率は55.1%と低調であった。住宅用火災警報器266個の点検を行い、不良は14個で不良率は5%であった。

【その他】

- ・ コロナ禍において人の集まる機会が減った中で、人を集めずに、既存の枠組みを利用することで負担を少なく行える方法を家庭防災員と相談して企画した。
- ・ 自治会の住宅用火災警報器の設置状況や故障している割合を確認することで、より身近な統計データが得られ、住宅用火災警報器の点検や買い替えの促進に繋がった。
- ・ 防災訪問や住宅用火災警報器の取付支援の取組に繋がった。

Ⅱ 実践編

(7) 保土ヶ谷消防署 取り組み事例3

ア タイトル

火災予防協会から寄贈された住宅用火災警報器の高齢者世帯への無償配布

イ 取組内容

火災予防の一層の推進を図るため、火災予防協会から住宅用火災警報器200個の寄贈を受けた。火災による死者のうち高齢者の占める割合が高いことから、高齢者を火災による被害から守るため、高齢者世帯へ住宅用火災警報器の無償配布を行った。なお、原則として取付けは区民自らに行っていたが、高齢等の理由から難しい場合は、従来から実施している「取付支援」や「防災訪問」として支援し、高齢者の一層の安全安心に繋がった。

- ・ 寄贈された住宅用火災警報器
煙感知式警報器（単体型）200個

- ・ 配布個数

2個1組（100世帯）

- ・ 配布対象世帯 ※以下の(1)、(2)の両方を満たす世帯

(1) 区内の75歳以上の一人暮らし、又は75歳以上のみの世帯

(2) 住宅用火災警報器が未設置（一部設置含む。）又は設置してから約10年が経過している世帯

※市営住宅、県営住宅及びUR賃貸住宅は対象外

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

ウ 関係先との調整等

火災予防協会：寄附受納式の開催、その他各種文書関係の調整

区民：区連会、民生委員児童委員協議会等を通じた周知

エ スケジュール

- ・ 寄附受納（9月下旬）
- ・ 寄附受納式（10月中旬）
- ・ 区連会、民生委員児童委員協議会、広報よこはま、タウンニュースで周知（10～11月中）
- ・ 応募期間（11月中）※秋の火災予防運動の取組の一環として実施
- ・ 当選結果の通知（12月上旬）
- ・ 消防署での配付（取付支援、防災訪問）（12月中旬～1月下旬）

Ⅱ 実践編

オ 予算など
なし

カ 備考（実施状況効果等）

高齢者向けの事業であり、日頃見守り活動をしている民生委員との連携は欠かせない。今回は配付対象100世帯に対し210件の応募があり、ニーズは高いものであった。住宅用火災警報器は、法令により区民自ら設置すべき義務があるものの、高齢等の理由により、その設置、維持管理が難しいという実情もある。住宅用火災警報器は言うまでもなく、火災の早期発見に有効であることから、避難等に時間を要する高齢者に対する今回の配布は、大変有効なものであったと考える。

Ⅱ 実践編

(8) 旭消防署 取り組み事例

ア タイトル

「おうちぼうさいてんけんシート」を活用した防災意識の普及啓発

イ 概要

区内の小学校全校に「おうちぼうさいてんけんシート」を配布し、子ども達（小学生）を中心に両親や兄弟など家族が自宅の防災点検を実施することにより、自助意識及び災害に対する備えの普及啓発を図った。



明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

ウ 取組内容

(ア) 実施事項

先行配布小学校2校(旭南部地区連合自治会)

南本宿小学校(8月31日)、本宿小学校(9月5日)

消防職員が、放送室において「おうち防災点検シート」の間違い探し要領を説明し、全校各教室に映像を放送して、全校生徒が間違い探しを体験した。

上記以外の小学校

旭区「小・中学校校長会」(9月14日)での説明を経て区内全小学校へ配布(9月26日～28日)

消防職員が教職員に「おうち防災点検シート」の間違い探し要領を説明し、区内全小学校の生徒が間違い探しを体験した。

(イ) 人員

予防担当4名

(ウ) 必要な資器材

放送設備、テレビ(小学校側で用意)

「おうち防災点検シート」、パネル⇒予防担当で用意

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整等

主管局である旭区総務課との調整

オ スケジュール

6月～7月：旭区総務課との「小・中学校校長会」での説明について調整

8月：実施方法、「おうち防災点検シート」配布手順等の調整

南本宿小学校、本宿小学校との「おうち防災点検シート」の点検要領の説明に際して放送施設の活用等について調整

上記以外の小学校との配布日時等について調整

8月31日、9月5日、9月26日～28日説明、配布及び児童体験実施

カ 予算等

10万円

キ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年8月31日・9月5日・9月26日～9月28日まで

場所：旭区内全小学校及び児童が暮らす各家庭

【実施効果】

子ども達から「おうち防災点検シート」を保護者へと繋ぎ、自らの住いについて親子で点検を実施することで、各家庭の自助意識の向上が図られた。

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(9) 磯子消防署 取り組み事例

ア タイトル

防災フェスにおける「よこはま防災e-パーク」の広報

イ 取組内容

令和5年11月12日にらびすた新杉田及び杉田一丁目ふれあい広場にて開催した「防災フェス」において、「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズの体験や「よこはま防災e-パーク」の広報を通じ、子どもや子育て世代を含めた市民への防災意識の醸成を図った。

(ア) 実施事項

「防災フェス」にブースを開設し、モニターによって、「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズを体験他にも車両展示、消火体験（水消火器）、地震体験（起震車のブースを開設してそれぞれにスタンプを配置し、スタンプラリーを実施することにより、スタンプ帳を完成させた参加者に粗品とともに「よこはま防災e-パーク」のちらしを配布し広報を実施



Ⅱ 実践編

(イ) 人員

警防課員、予防課員、出張所長 合計16名

(ウ) 必要な資機材

長机、テント、パソコン、モニター、ガチャガチャ、チラシ、スタンプ、景品

ウ 関係先との調整等

新杉田都市開発株式会社との調整

磯子土木事務所との調整

横浜交通開発株式会社磯子営業所との調整

エ スケジュール

7月から9月：各関係機関との調整

10月：実施計画、人員等の調整（詳細な実施要領の検討、参加人員など）

11月12日 防災フェス開催

オ 予算等

一日消防署長依頼料

Ⅱ 実践編

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年11月12日（日）午前9時10分から11時30分まで

場所：らびすた新杉田及び杉田一丁目ふれあい広場

（磯子区杉田一丁目1番1号）

体験者数：約50名

Ⅱ 実践編

(10) 金沢消防署 取り組み事例

ア タイトル

ぬりえを用いた住宅用火災警報器の設置、点検及び交換等の広報

イ 概要

子どもや子育て世代への防火意識の醸成を図った。

ウ 取組内容

子ども及び子育て世帯に向けた取り組みとして、横浜市消防局キッズ消防隊のぬりえを書いていた子どもに対し、景品をプレゼントしている。ぬりえの裏面には、住宅用火災警報器の設置、点検及び交換を促すイラストや、住宅防火診断を設けており、ぬりえの配布や受取時に子どもの親に対して、火災予防広報を行っている。景品内容としては、金沢消防署独自のガチャマシーンを用い、消防車やキッズ消防隊のイラストをバッジにし、プレゼントとしている。

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整等

なし

オ 予算等

火災予防協会の協賛

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

数年

【目的・効果】

- ・ 将来の防火防災の担い手である子どもに、少しでも消防の仕事について興味を持ってもらうこと。
- ・ 子育て世代に対しての出火防止の啓発
- ・ 年間100枚程度

Ⅱ 実践編

(11) 港北消防署 取り組み事例1

ア タイトル

トレッサ横浜防災フェア「はたらく車」における「よこはま防災e-パーク」の広報

イ 取組内容

トレッサ横浜の防災イベントでブースを出展し、ぬりえや応急手当体験に併せてタブレットを活用した「ポケモンぼうさいきょうしつ」のクイズを実施、クイズに答えた来場者に広報物品を渡した。

(ア) 人員

消防職員3名 消防団員3～4人

(イ) 資機材

長机2～3 椅子6（主催者側用）、タブレット、Wi-Fi、チラシ、広報物品、レサシ、AED、消防団積載車

ウ 関係先との調整等

主催者トレッサ横浜との調整



明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

ウ 関係先との調整等

主催者トレッサ横浜との調整

エ スケジュール

6月 トレッサ横浜からブース出展依頼

7月～8月 実施場所、内容、必要資機材、参加人員（団員含む）、配布物品、休憩場所、休憩方法等の調整

9月2、3日 イベント参加

オ 予算等

広報物品は火災予防協会の広報活動費から支出（2～3万円）

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年9月2日（土）・3日（日）10時00分から16時00分まで

場所：トレッサ横浜イベント広場（港北区師岡777）

【実施効果】

体験者数：約100名

Ⅱ 実践編

(11) 港北消防署 取り組み事例2

ア タイトル

わくわく消防フェスタにおける区役所と連携した啓発

イ 取組内容

わくわく消防フェスタを港北区総合庁舎駐車場で開催し、各種体験ブースの他に防災・減災ブースを設け、港北区役所職員がマイタイムライン等を活用した啓発広報を実施した。

(ア) 人員

消防職員30名 消防団員5人 区役所職員2人

(イ) 資機材

長机8 椅子12、バッテリーカー、チラシ、広報物品、レサシ、AED、子ども防火服、消防団積載車、はしご消防車



Ⅱ 実践編

- ウ 関係先との調整等
区役所（防災担当、施設管理担当）との調整
- エ スケジュール
4月：開催日の決定
5月：区役所駐車場の借用依頼及び申請
7月～9月：内容、ブースレイアウト、必要資機材、参加人員（団員含む）、配布物品、休憩場所の調整、プログラム作成
10月：イベント開催に伴う広報（チラシ、SNS等）
11月12日：イベント開催
- オ 予算等
広報物品は火災予防協会の広報活動費から支出（5万円）
- カ 備考（実施状況効果等）
【実施状況】
日時：令和5年11月12日（日）11時00分から14時00分まで
来場者数：約1,500名
場所：港北区総合庁舎駐車場（港北区大豆戸町26-1）

Ⅱ 実践編

(11) 港北消防署 取り組み事例3

ア タイトル

初期消火器具取り扱い訓練会における自治会と連携した啓発

イ 取組内容

大規模地震発生に備え地域での初期消火技術の向上と火災による被害を軽減することを目的として、初期消火器具(スタンドパイプ式初期消火器具・初期消火箱)を保有する自治会・町内会を対象とした初期消火器具取扱い技術訓練会を開催

(ア) 人員

消防職員10名 消防団員5人

(イ) 資機材

長机8 椅子50、初期消火器具一式、テント4、模擬消火栓、消防用ホース10、カラーコーン20、トラバー20

ウ 関係先との調整等

各自治会との調整

Ⅱ 実践編

エ スケジュール

4月：開催日の決定

6月：区連会で説明

7月：会場の借用依頼及び申請

8月～9月：内容、コースレイアウト、必要資機材、参加人員（団員含む）の調整、プログラム作成

10月：開催

オ 予算等

なし

カ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和5年10月4日（土）10時00分から11時30分まで

場所：環境創造局樽町ポンプ場（港北区樽町3-9-11）

【実施効果】

初期消火器具を4人で操作し、消火栓からホースを延長し、前方の標的に安全・確実に放水するまでの一連の操作を区内の7つの連合町内会から8チームが実施した。

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(12) 緑消防署 取り組み事例

ア タイトル

QRコードを利用した広報

イ 目的

印刷した広報配布物品の配布数減少を背景とし、また、広報啓発のデジタル化を目的として実施、QRコードを読み取って動画を視聴してもらうことにより、子どもをはじめ各世代の防災意識の向上を図ると同時に、消防署に来て車両等の見学により消防署に親しみを持っていただくことも目的

ウ 取組内容

本署、出張所に掲示したQRコードを読み取ってもらい、その場で火災予防に関連する動画等を視聴してもらう。動画等を視聴してもらった方には粗品（本署・出張所別の消防車両缶バッジ）をプレゼント

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整等

警防課及び出張所との調整（予防担当不在の土日対応について）

オ スケジュール

1月：企画・立案、実施内容や実施方法の検討

2月：署内出張所長との調整・粗品配布用署所別消防車両の缶バッチ作成

3月：「春の火災予防運動」で実施

カ 予算等

【参考】缶バッチ（38mm）材料費、缶バッチデザイン印刷費（缶バッチ作成機械がない場合は購入や借用も必要）

キ 備考（実施状況効果等）

【広報】

タウンニュース、区役所X、タウンニュース電子版、ヤフーニュース

【実施状況】

令和5年3月1日～3月7日

※ 土日は、警防課対応（出張所不在時は、看板掲出）

【参考】

埼玉、栃木、静岡、福岡など、県外からの来所や問い合わせあり

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

(13) 青葉消防署

ア タイトル

青葉区役所と連携したポケモンぼうさいきょうしつクイズ

イ 取組内容

ポケモンぼうさいきょうしつクイズの体験者への修了証の配布については、予防課にて、ポケモン財団と調整していただき実施することができました。また、今年度は、各消防署にiPadが2台配付され、よこはま防災e-パークを体験していただく機会が増えました。

しかしながら、イベントで実施するには、台数が少ない状況でした。そこで、青葉区役所に相談したところ、防災フェアでのポケモンぼうさいきょうしつクイズ参加に参加していただくとともに、携帯端末10台を貸出していただけました。今年度は、2回の防災フェアに協力していただいています。3月にも実施しました。

ウ 関係先との調整等

青葉区役所 危機管理・地域防災担当係長と調整し、携帯端末10台とwi-fi数台の借用を依頼、防災フェアの参加依頼（避難ナビの広報及びポケモンぼうさいきょうしつクイズの手伝い）

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

YOKOHAMA

Ⅱ 実践編

- エ スケジュール
防災フェアの起案時に区役所と調整
- オ 予算等
なし
- カ 備考（実施状況効果等）
3月の防災フェアでは、ポケモンぼうさいきょうしつクイズの実施者に防災センターから借用予定の電動カーの乗車体験を先着順で実施予定

Ⅱ 実践編

(14) 都筑消防署 取り組み事例

ア タイトル

都筑区消防出初式において「よこはま防災 e-パーク」の広報

イ 取組内容

(ア) 概要

都筑区出初式において、区役所内（区民ホール）で「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズの体験及び「よこはま e-パーク」の広報を通じ、区民の防災意識の醸成を図った。

(イ) 実施事項

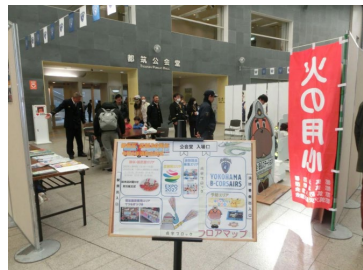
出初式開催にあたりブースを設け、来場者に対し「よこはま防災 e-パーク」の広報及び親子に対し「ポケモンぼうさいきょうしつ」クイズを体験していただき記念品及び修了証のプレゼントをおこなった。

(ウ) 人員

予防係員 3 名

(I) 必要な資機材

長机、椅子 iPad、チラシ、記念品、修了証



Ⅱ 実践編

- ウ 関係先との調整等
区民ホールの使用許可（事前に庶務と調整）
- エ スケジュール
11月：出初式開催に伴い、署内にて調整
12月：必要資機材等の調整・実施方法、内容の調整
1月6日：出初式にて実施
- オ 備考（実施状況効果等）
【実施状況】
日時：令和6年1月6日 13時00分から 16時00分まで
場所：都筑区役所内、区民ホール
体験者：約 200 名

Ⅱ 実践編



(15) 戸塚消防署 取り組み事例

ア タイトル

保育園の消防署訪問

イ 取組内容

車両見学: ガレージにて消防車両、写真撮影 (担当警防課)

子ども防火衣装着: 担当予防担当

よこはま防災 e-パークの活用: 担当予防担当

ウ 関係先との調整等

保育園の担当者と調整

エ スケジュール

9時 30 分より3班に別れた園児が、1 ブース15分、移動5分により3回転して実施

オ 予算等

なし

カ 備考 (実施状況効果等)

車両を見学すると同時に、防火衣装着による消防士体験、ポケモンによる防火防災の座学は、飽きることなく楽しそうにしていた。

雨天時でも実施できるため、スケジュールの延期がない。

Ⅱ 実践編

(16) 栄消防署

ア タイトル

事業所等と連携した防火・防災啓発

イ 概要

本郷台駅前広場において、区内事業所や消防団等と連携して防火・防災フェアを開催

ウ 内容

(ア) 実施事項

体験：地震体験、水消火器、煙体験、こども防火衣着装、心肺蘇生法展示：消防車、救急車、消防団積載車、クイズラリーその他：消防音楽隊の演奏、火災予防協会ブース、消防団ブース、区役所ブース

(イ) 人員

消防署：16人 消防団：10人

(ウ) 資機材

防災指導車、水消火器20本、標的4個、消防車、救急車、消防団積載車、煙ハウス、スモークマシン、コードリール3器、レサシアン4体、AED×4、明日をひらく都市ガチャガチャ×2、机15台、イス35脚、ブルーシート2枚、テント9個、その他養生テープ等

Ⅱ 実践編

エ 関係先との調整等

- ・ 本郷台駅前広場活性化推進委員会（事務局区役所地域振興課）に広場借用及び後援依頼
- ・ 消防団派遣依頼
- ・ 火災予防協会協賛依頼
- ・ 区役所総務課に防災ブースの協力依頼
- ・ 消防音楽隊派遣依頼

オ スケジュール

前年度2月：区役所地域振興課から本郷台駅前広場の次年度使用スケジュールの確認、実施日を決定して回答

実施日6か月前：防災指導車の予約

実施日4か月前：消防音楽隊の派遣依頼

実施日3か月前：消防団派遣依頼、火災予防協会協賛依頼、区役所総務課協力依頼、区役所へ本郷台駅前広場借用・講演依頼の提出、消防音楽隊細部事項提出
実施日2か月前：区連会提出資料の作成、チラシの作成

開催1か月前：区連会議題提出、広報物品等の購入

1か月前から実施日まで：ガチャガチャ借用、防災指導車の借用、物品の準備等

Ⅱ 実践編

カ 予算等

なし

キ 備考（実施状況効果等）

【実施状況】

日時：令和4年11月12日（土） 8時30分から12時00分まで

場所：本郷台駅前広場

来場者数（概数）：250人

Ⅱ 実践編

(18) 瀬谷消防署

ア タイトル

町の防災組織初期消火合同訓練会

イ 取組内容

大地震等の災害による被害の軽減及び予防のため、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成・運営される自治会・町内会などの防災組織の初期消火能力向上と、住民同士の連携強化を図ることを目的し、毎年各連合自治会町内会代表等12チーム程度の参加する訓練会を開催。

(ア) 開催時期

秋の火災予防運動期間中、11月第2土曜日

(イ) 場所

瀬谷区二ツ橋町190番地 二ツ橋公園芝生広場

(ウ) 主催

「市民防災の日」瀬谷区推進委員会、瀬谷区役所、瀬谷消防署

Ⅱ 実践編

(Ⅰ) 後援
瀬谷火災予防協会

(才) 訓練内容
初期消火箱を4人で操作する実践訓練とし、前方の標的に安全確実に有効放水できるかを競います。操作開始から、有効放水までの所要時間を測定し順位に反映させます。放水終了後の撤収は行いません。

(カ) 参加した自治会町内会
初期消火器具等の新規設置又は既に設置されている資機材の更新を目的に、自治会・町内会に対して初期消火器具等を貸与する事業を行っております。

ウ 関係先との調整等
瀬谷区役所総務課、瀬谷土木事務所

Ⅱ 実践編

エ スケジュール

- 3月：開催会場仮予約：二ツ橋公園芝生広場（瀬谷土木事務所）
- 3月：区連会議題提出：町の防災組織初期消火合同訓練会開催（地域振興課）
- 6月：初期消火器具貸与品購入調整（総務課）
- 7月：区連会議題提出：町の防災組織初期消火合同訓練会参加募集（地域振興課）
- 7月：二ツ橋公園芝生広場使用申請及び減免申請（瀬谷土木事務所）
- 8月：町の防災組織初期消火合同訓練会開催通知（瀬谷消防署）
- 9月：初期消火器具貸与品納入（総務課）
- 10月：町の防災組織初期消火合同訓練会細部実施要領（瀬谷消防署）
- 11月：町の防災組織初期消火器具事前指導会（瀬谷消防署ガレッジ前）

Ⅱ 実践編

才 予算等

総務課（初期消火器具貸与品購入）、火災予防協会（参加記念品購入）

力 備考（実施状況効果等）

参考：貸与資機材

消防用ホース（40mm 20m） 3本

媒介金具（65mm/40mm） 1個

筒先（40A差込式）可変ノズル付1本

消火栓鍵1本

（※貸与期間5年が経過した資機材は、自治会町内会の所有）